(財)日本住宅・木材技術センター技術開発事業

ISO/TC165国内審議会
委員会報告書
(資料編)

48

(52)

平成10年3月

財団法人　日本住宅・木材技術センター

目　　次

	ページ
１．ＩＳＯ／ＴＣ１６５において審議中の規格一覧	1
２．ＩＳＯ／ＴＣ１６５における提案規格の審議経過	5
３．ＩＳＯ／ＴＣ１６５関係 規格・基準・略号の解説	18
４．今までに翻訳した規格の一覧	22
５．ＴＣ１６５ 第11回 シドニー国際会議　議事要録	28

１．ＩＳＯ／ＴＣ１６５において審議中の規格一覧

ＩＳＯ／ＴＣ１６５木構造関係で現在ＩＳＯとして公示されている規格は以下の３規格のみである。

ＩＳＯ６８９１－１９８３　木構造－機械的接合－強度及び変形特性を決定するための一般原則

ＩＳＯ８９６９－１９９０　木構造－メタルプレート及びその接合部の試験方法

ＩＳＯ８９７０－１９８９　木構造－機械的接合と木材比重との関係

また、現在審議中の規格は、次ページ以下の表のとおりである。

1.　ＩＳＯ／ＴＣ１６５において審議中の規格一覧

プロジェクト名称	EN no.	開始年月	進捗ｽﾃｰｼﾞ 1998.2.4	最終予定
1．ISO/CD 8375 素材ー物理的機械的特性の決定（ISO 8375:1985の改訂）	prEN408 prEN1193	93-01	30.92*	96-06*
2．ISO／DIS 8972（1988）　WG5 素材ー構造用グルーピング(1993-03-30に確定した事項)	prEN338	81-12	30.99	95-12*
3．ISO/CD 9708-1.2 木構造ー試験方法ー耐力釘接合	prEN1380	85-08	30.99*	95-05*
4．ISO/CD9708-2 木構造ー試験方法ー耐力ステープル接合	prEN1381	93-03	30.99*	95-5*
5．ISO/CD9708-3 木質構造ー試験方法ー木質系接合具の引き抜き耐力	prEN1382	93-03	30.99*	95-5*
6．ISO/CD9708-4 木質構造ー試験方法ー木質系接合具の貫通抵抗試験	prEN1383	93-03	30.99*	96-6*
7．ISO/CD 9709-1　WG5 素材ー等級区分ー１部：視覚的強度等級基準の要求	prEN518	93-03	30.99*	95-11*
8．ISO/DIS 9709-2　WG5 素材ー等級区分ー２部：針葉樹の視覚的強度等級区分		85-08	40.60	96-05*
9　？？？9709-3 素材ー等級区分ー３部：広葉樹の視覚的強度等級区分			00.20	
10．ISO/DIS 10983.2　WG6 木構造ー素材のﾌｨﾝｶﾞｰｼﾞｮｲﾝﾄー製造要求条件（1993-03-30に確定した事項）		90-06	40.92	96-05*
11．ISO/CD 10984-1.2 木構造ーだぼ型接合具ー１部：曲げ強度の定義	EN409	90-06	30.99*	95-05*
12．ISO/CD 10984.2 木構造ーダボタイプ接合具ー曲げ強さ試験	EN383	94-06	30.99*	96-06*
13．ISO/CD12578　WG2 木構造ー集成材ー製造基準（1993-03-30の確定事項）	prEN386	83-10	20.60	95-08*
14．ISO/CD12579　WG2 木構造ー集成材ー接合面せん断試験（1993-03-30の確定事項）	prEN392	83-10	30.99*	96-06*
15．ISO/CD 12580　WG2 木構造ー集成材ー接着面の剥離試験	prEN391	83-10	30.99*	96-06*

16. ISO/CD 12581 木構造－静的荷重試験の一般原則	EN380	81-06	30.99	94-08*
17. ISO/WD 13910 WG5 木構造－特性値の決定	prEN384	93-03	20.20	96-11*
18. ISO/WD 13911 WG2 木構造－集成材－ﾗｰｼﾞﾌｨﾝｶﾞｰｼﾞｮｲﾝﾄの性能基準及び最小限の製造基準	prEN387	93-03	20.60	96-11*
19. ISO/CD 13912 WG5 木構造－等級区分－機械的等級区分製材及びその装置に関する基準	PrEN519	93-03	30.99	95-11
20. ISO/DIS 12583-1 木材・木質材料－生物劣化に関するハザード区分の定義　その１一般	EN335-1	95-06	30.92	97-06
21. ISO/DIS 12583-2 木材・木質材料－生物劣化に関するハザード区分の定義 その２木質パネル	EN335-2	95-06	30.92	97-06
22. ISO/WD 12583-3 木材・木質材料－生物劣化に関するﾊｻﾞｰﾄﾞ区分の定義その２木質ﾊﾟﾈﾙへの適用	prEN335-3		40.20	
23. ISO/WD 12583-4 木材及び木質材料の耐久性－木材の自然耐久性－ﾊｻﾞｰﾄﾞ区分と耐久性区分	prEN460	93-03	00.20	
24. ISO/NP 15206 WG9 丸太柱－試験方法－構造特性の決定		95-12	20.20	96-10*
25. ISO/NP 15207 WG9 丸太柱－強度特性値の決定		95-12	20.20.	96-10*
26. ISO/DIS8972 WG5 素材－構造用木材	prEN338	81-12	40.92	95-12*
27. ISO/DIS 15385-1 木材及び木質材料の耐久性－保存処理木材－保存材の湿潤と吸湿量の分類	EN351-1	96-05	20.98	98-05
28. ISO/DIS 15385-2 木材及び木質材料の耐久性－保存処理木材－保存処理木材分析に用いる サンプリングのガイダンス	EN351-2	96-05	20.98	98-05

注１）規格No.の太文字は翻訳済みのもの
注２）進捗ステージについては次ページ「ＩＳＯ手順書」参照のこと

＊上記作業プログラムは、1997.10.16 ISO/TC165 シドニー国際会議、1998.2.4 SC1 カンヌ国際会議資料より整理した。

ＩＳＯ手順書

段階	副段階						
	00 登録	20 主要処理の開始	60 主要処理の完了	90 決定			
				92 以前の段階の繰り返し	93 現段階の繰り返し	98 破棄	99 前進
00 予備段階	00.00 新プロジェクト提案の受理	00.20 新プロジェクト提案は見直し中	00.60 見直し要約の回付			00.98 新プロジェクト提案の破棄	00.99 新プロジェクト提案を投票することの承認
10 提案段階	10.00 新プロジェクト提案の登録	10.20 新プロジェクトの投票開始	10.60 投票結果要約の回付	10.92 更に明確にするため、提案を提出者に返却		10.98 新プロジェクトを否決	10.99 新プロジェクトを承認
20 作成段階	20.00 TC又はSCの業務計画にプロジェクトを登録	20.20 作業原案(WD)の検討開始	20.60 意見の要約の回付			20.98 プロジェクトの削除	20.99 CDとしての登録を承認されたWD
30 委員会段階	30.00 委員会原案(CD)の登録	30.20 CDの検討/投票開始	30.60 意見/投票結果要約回付	30.92 CDをWDへ差し戻し		30.98 プロジェクトの削除	30.99 DISとしての登録を承認されたCD
40 照会段階	40.00 DISの登録	40.20 DIS投票の開始：5か月間	40.60 投票結果要約発送	40.92 フルレポート回付：DISをTC又はSCに差し戻し	40.93 フルレポート回付：新DIS投票の決定	40.98 プロジェクトの削除	40.99 フルレポート回付：FDISとして登録されたDIS
50 承認段階	50.00 正式承認のために登録されたFDIS	50.20 FDIS投票の開始：2か月間、校正刷を幹事国に発送	50.60 投票結果要約の発送 校正刷を幹事国から返却	50.92 FDISをTC又はSCへ差し戻し		50.98 プロジェクトの削除	50.99 発行を承認されたFDIS
60 発行段階	60.00 国際規格の発行準備中		60.60 国際規格の発行				
90 見直し段階		90.20 国際規格を定期的見直し中	90.60 見直し要約の回付	90.92 国際規格の改正決定	90.93 国際規格の確認		90.99 TC又はSCの提案で国際規格を廃止
95 廃止段階		95.20 廃止投票の開始	95.60 投票結果要約の発送	95.92 国際規格廃止の否決			95.99 国際規格の廃止

２．ＩＳＯ／ＴＣ１６５における提案規格の審議経過

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＦＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＤＩＳ１０９８３．２
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３８５ ベース（国際規格用に修正）
名　称	木構造ー製材のフィンガージョイントー製造基準
対応ＷＧ	ＷＧ６
審議分科会	集成材分科会
回答結果	賛成
コメントの有無	なし
回答時期	Ｈ９年９月１６日
投票結果	可決
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ９年度報告書）、翻訳者：丸山　武
規格の検討結果	あり（Ｈ８、９年度報告書）
備　考	ＤＩＳ１０９８３より名称変更（内容は同一） 変更前「フィンガージョイント構造用製材ー性能基準および最低製造基準」
過　去　の　検　討　状　況	
国際回答の有無	ＣＤ、ＷＤ対応はＰメンバー以前（Ｈ７．３月）のため回答なし
検討段階	対応ＣＥＮ規格の検討
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３８５：１９９５
名　称	フィンガージョイント構造用製材
規格の翻訳	あり（Ｈ７年度報告書）、翻訳者：丸山　武
規格の検討結果	なし
備　考	
検討段階	対応ＣＥＮ規格の検討
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８５：１９９１
名　称	フィンガージョイント構造用製材
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：丸山　武
規格の検討結果	なし
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＦＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＤＩＳ１２５８３－１
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３３５－１
名　称	木材及び木質材料の耐久性－生物劣化危険度区分　その１：一般
対応ＷＧ	ＷＧ３
審議分科会	木材保存分科会
回答結果	反対
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ８年２月２９日
投票結果	可決、ただしＳＣにて再検討
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：石田英生
規格の検討結果	あり（Ｈ６、７年度報告書）
備　考	ＤＩＳ１２５８３－１は、ｐｒＥＮ３３５－１：１９９０に対応

提案段階	ＦＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＤＩＳ１２５８３－２
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３３５－２
名　称	木材及び木質材料の耐久性－生物劣化危険度区分　その２：素材への適用
対応ＷＧ	ＷＧ３
審議分科会	木材保存分科会
回答結果	反対
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ８年２月２９日
投票結果	可決、ただしＳＣにて再検討
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：飯島倫明
規格の検討結果	あり（Ｈ６、７年度報告書）
備　考	ＤＩＳ１２５８３－２は、ｐｒＥＮ３３５－２：１９９０に対応

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＦＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＤＩＳ１５３８５－１
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３５１－１
名　称	木材及び木質材料の耐久性ー薬剤処理木材ー第１部　保存剤の湿潤と吸収量の分類
対応ＷＧ	ＷＧ３
審議分科会	木材保存分科会
回答結果	反対
コメントの有無	あり（Ｈ８年度報告書）
回答時期	Ｈ９年１月２２日
投票結果	否決
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ８年度報告書）、翻訳者：飯島倫明
規格の検討結果	あり（Ｈ８年度報告書）
備　考	ＤＩＳ１５３８５－１は、ＥＮ３５１－１：１９９５に対応

提案段階	ＦＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＤＩＳ１５３８５－２
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３５１－２
名　称	木材及び木質材料の耐久性ー薬剤処理木材ー第２部　薬剤処理木材の分析のためのサンプリングについてのガイドライン
対応ＷＧ	ＷＧ３
審議分科会	木材保存分科会
回答結果	反対
コメントの有無	あり（Ｈ８年度報告書）
回答時期	Ｈ９年１月２２日
投票結果	否決
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ８年度報告書）、翻訳者：鈴木憲太郎
規格の検討結果	あり（Ｈ８年度報告書）
備　考	ＤＩＳ１５３８５－２は、ＥＮ３５１－２：１９９５に対応

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ９７０８－１．２
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ１３８０
名　称	木構造－試験方法－耐力釘接合
対応ＷＧ	ＴＣのワークアイテム
審議分科会	木質構造委員会
回答結果	賛成
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ７年９月
投票結果	ＷＤ検討開始
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：河合直人
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）、検討者：河合直人
備　考	ｐｒＥＮ１３８０原案であるＥＮＴＣ１２４．１１２：１９９０を翻訳して検討した。

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ９７０８－２
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ１３８１
名　称	木構造－試験方法－耐力ステープル接合
対応ＷＧ	ＴＣのワークアイテム
審議分科会	木質構造委員会
回答結果	賛成
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ７年９月
投票結果	ＷＤ検討開始
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：河合直人
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）、検討者：河合直人
備　考	ｐｒＥＮ１３８１原案であるＥＮＴＣ１２４．１１３：１９９０を翻訳して検討した。

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ９７０８－３
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ１３８２
名　称	木構造－試験方法－木質系接合具の引き抜き耐力
対応ＷＧ	ＴＣのワークアイテム
審議分科会	木質構造委員会
回答結果	賛成
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ７年９月
投票結果	ＷＤ検討開始
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：大橋好光
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）、検討者：原田真樹
備　考	ｐｒＥＮ１３８２原案であるＥＮＴＣ１２４．１１４：１９９０を翻訳して検討した。

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ９７０８－４
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ１３８４
名　称	木構造－試験方法－木質系接合具の貫通抵抗試験
対応ＷＧ	ＴＣのワークアイテム
審議分科会	木質構造委員会
回答結果	賛成
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ７年９月
投票結果	ＷＤ検討開始
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：大橋好光
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）、検討者：原田真樹
備　考	ｐｒＥＮ１３８３原案であるＥＮＴＣ１２４．１１５：１９９０を翻訳して検討した。

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ１０９８４
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８３，４０９
名　称	木構造－釘及びその他のダボ型接合具－曲げ強度の定義
対応ＷＧ	ＴＣのワークアイテム
審議分科会	木質構造委員会
回答結果	Ｐメンバー以前（Ｈ７．３月）のため回答なし
コメントの有無	
回答時期	
投票結果	
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：原田真樹
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）
備　考	検討後、ＤＩＳ１０９８４－１．２（ｐｒＥＮ４０９）と１０９８４－２（ｐｒＥＮ３８３）に分離

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ９７０９－１
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ５１８：１９９３
名　称	素材－等級区分－１部：視覚的強度等級基準の要求
対応ＷＧ	ＷＧ５
審議分科会	製材分科会
回答結果	意見のみ
コメントの有無	あり（Ｈ６年度報告書）
回答時期	Ｈ６年９月１２日
投票結果	投票なし
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：杉本健一
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ１２５７８：１９９５
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８６
名　称	木構造－集成材－製造基準
対応ＷＧ	ＷＧ２
審議分科会	集成材分科会
回答結果	
コメントの有無	
回答時期	
投票結果	
対応ＪＩＳの有無	あり：ＪＡＳ１１１
規格の翻訳	あり（Ｈ９年度報告書）、翻訳者：倉田久敬
規格の検討結果	あり（Ｈ９年度報告書）
備　考	Ｄｏｃ．Ｎ１９５
過　去　の　検　討　状　況	
国際回答の有無	あり
検討段階	ＷＤ登録手続き段階
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３８６：１９９５
名　称	木構造－集成材－製造基準
回答結果	賛成
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ８年１月２日
投票結果	賛成
規格の翻訳	なし
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）、ＷＤ１２５７８を入手して検討
備　考	
検討段階	対応ＣＥＮ規格の検討
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８６：１９９１
名　称	集成材の製造基準
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：倉田久敬
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ１２５７９
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３９２
名　称	木構造－集成材－接合面のせん断試験
対応ＷＧ	ＷＧ２
審議分科会	集成材分科会
回答結果	
コメントの有無	
回答時期	
投票結果	
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ７年度報告書）、翻訳者：滝　欽二 ＥＮ３９２：１９９５
規格の検討結果	あり（Ｈ９年度報告書）
備　考	ＷＤ１２５７９は、ＥＮ３９２、ＴＣ１２４．３０５に対応

過　去　の　検　討　状　況

国際回答の有無	Ｐメンバー以前（Ｈ７．３月）のため回答なし
検討段階	対応ＣＥＮ規格の検討
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３９２：１９９１
名　称	集成材－接合面せん断試験
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：滝　欽二
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）、検討者：滝　欽二
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ１２５８０
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３９１
名　称	木構造－集成材－接合面の剥離試験
対応ＷＧ	ＷＧ２
審議分科会	集成材分科会
回答結果	
コメントの有無	
回答時期	
投票結果	
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ８年度報告書）、翻訳者：滝　欽二 ＥＮ３９１：１９９５
規格の検討結果	あり（Ｈ９年度報告書）
備　考	ＷＤ１２５８０は、ＥＮ３９１、ＴＣ１２４．３０４に対応

過　去　の　検　討　状　況

国際回答の有無	Ｐメンバー以前（Ｈ７．３月）のため回答なし
検討段階	対応ＣＥＮ規格の検討
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３９１：１９９１
名　称	集成材－接合面せん断試験
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：滝　欽二
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）、検討者：滝　欽二
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ１２５８１
対応ＣＥＮ規格	ＥＮ３８０
名　称	木構造－試験方法－静的荷重試験の一般原則
対応ＷＧ	ＴＣのワークアイテム
審議分科会	木質構造分科会
回答結果	賛成
コメントの有無	あり（Ｈ８年度報告書）
回答時期	Ｈ８年９月１１日
投票結果	可決
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ７年度報告書）、翻訳者：原田真樹
規格の検討結果	あり（Ｈ７，８年度報告書）
備　考	

提案段階	ＤＩＳ登録手続き段階
規格番号	ＣＤ１３９１２
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ５１９：１９９３
名　称	木構造－等級区分－機械的等級区分製材及びその装置に関する基準
対応ＷＧ	ＷＧ５
審議分科会	製材分科会
回答結果	コメントのみ
コメントの有無	あり（Ｈ６年度報告書）
回答時期	Ｈ６年９月１２日
投票結果	投票なし
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：伏谷賢美
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＣＤ登録手続き段階
規格番号	ＷＤ１３９１０
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８４
名　称	構造用木材－機械的性質と密度の特性値の決定
対応ＷＧ	ＷＧ５
審議分科会	製材分科会
回答結果	賛成
コメントの有無	あり（Ｈ７年度報告書）
回答時期	Ｈ７年９月１３日
投票結果	可決
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：祖父江信夫
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）、検討者：長尾博文
備　考	ＷＤ１３９１０は、ｐｒＥＮ３８４：１９９５に対応 Ｄｏｃ．Ｎ１７１

過　去　の　検　討　状　況

国際回答の有無	Ｐメンバー以前（Ｈ７．３月）のため回答なし
検討段階	対応ＣＥＮ規格の検討
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８４：１９９１
名　称	構造用木材－機械的性質と密度の特性値の決定
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：祖父江信夫
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）、検討者：長尾博文
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＣＤ登録手続き段階
規格番号	ＷＤ１３９１１
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８７：１９９４
名　称	木構造－集成材－ﾗｰｼﾞﾌｨﾝｶﾞｰｼﾞｮｲﾝﾄの性能基準及び最小限の製造基準
対応ＷＧ	ＷＧ２
審議分科会	集成材分科会
回答結果	なし
コメントの有無	
回答時期	
投票結果	
対応ＪＩＳの有無	なし
規格の翻訳	あり（Ｈ９年度報告書）
規格の検討結果	あり（Ｈ９年度報告書）
備　考	Ｄｏｃ．Ｎ１９７ ＥＮ３８７は、未制定

過　去　の　検　討　状　況

国際回答の有無	Ｐメンバー以前（Ｈ７．３月）のため回答なし
検討段階	対応ＣＥＮ規格の検討
対応ＣＥＮ規格	ｐｒＥＮ３８７：１９９１
名　称	木構造－集成材－ﾗｰｼﾞﾌｨﾝｶﾞｰｼﾞｮｲﾝﾄの性能基準
規格の翻訳	あり（Ｈ６年度報告書）、翻訳者：丸山　武
規格の検討結果	あり（Ｈ６年度報告書）、検討者：丸山　武
備　考	

ＩＳＯ／ＴＣ１６５ 提案規格審議経過

提案段階	ＷＧドラフト準備段階
規格番号	ＴＣ１２４．２０９：１９９４
対応ＣＥＮ規格	なし
名　称	高架用電柱－試験方法－弾性係数、曲げ強さ、密度、含水率の測定
対応ＷＧ	ＷＧ５
審議分科会	製材分科会
回答結果	反対（直接ＣＤにすることに対し反対した。）
コメントの有無	あり（H7年度報告書）
回答時期	Ｈ７年９月１８日
投票結果	
対応ＪＩＳの有無	あり（ＪＡＳ規格）
規格の翻訳	あり（Ｈ７年度報告書）、翻訳者：杉本健一
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）
備　考	

提案段階	ＷＧドラフト準備段階
規格番号	ＴＣ１２４．２１２：１９９４
対応ＣＥＮ規格	なし
名　称	電柱用丸太－特性値の決定
対応ＷＧ	ＷＧ５
審議分科会	製材分科会
回答結果	反対（直接ＣＤにすることに対し反対した。）
コメントの有無	あり（H7年度報告書）
回答時期	Ｈ７年９月１８日
投票結果	
対応ＪＩＳの有無	あり（ＪＡＳ規格）
規格の翻訳	あり（Ｈ７年度報告書）、翻訳者：祖父江信夫
規格の検討結果	あり（Ｈ７年度報告書）
備　考	

３．ＩＳＯ／ＴＣ１６５関係 規格・基準・略号の解説

APEC　アジア太平洋経済協力機構。1995年11月の APEC 閣僚会議において「基準適合性枠組み宣言」を採択し、域内での国際規格との適合化、相互承認の推進、透明性の確保に協力して取り組むことが決定されている。

CD　ISO 及び IEC の"委員会原案"（Committee draft）。規格の新業務項目が提案され、WG 等により作成され（Working draft）その後正式に委員会で検討されるようになった原案を CD と呼ぶ。この段階の作業文書の著作権も保護されている。この CD は、従来 DP（Draft pro-posal）とよばれていたものに該当する。この後、会員の投票のための　DIS（及び FDIS）の段階に進み、各国に公開される。

CDV　CD for Vote 。DIS になる最終段階の CD（Committee draft）

CEN　ヨーロッパ標準化委員会（Comitée Européen de Normalisaion）。EC と EFTA の18か国の標準化機関が参加。1982年からは電気分野の CENELEC と共同体制で EN 、ENV 、HD などを発行している。中央事務局はブリュッセルにある。各メンバー国は、EN 規格を自国の国家規格にそのまま採用して、例えば DIN-EN 、NF-EN 、BS-EN として発行する。英語では European Committee for Standardization 、ドイツ語では Europäisches Komitee für Normung 。CEN カタログを参照。

DD　Drafts for Development 。CEN/CENELEC の暫定規格（ENV）を BS がそのまま採用した場合、DD ENV xxxx として刊行される。ENV の英語版。BS 規格の場合は、暫定的に発行される規格で、現場での適用試験による結果を取り入れた後、正式に BS 規格となる。規格番号は DD の略号から始まる。DD は特定のテーマに関して緊急に指針（ガイド）が要請されてはいるが、BS 規格としては十分な経験しかない場合に発行される。言い換えれば、正確さを確保するために広範な使用の経験が必要な、新しい方法を規定する場合などに DD が発行されている。

DIS　国際規格案（Draft International Standard）。ISO 加盟国の投票により75％以上の賛成により正式な国際規格として承認、発行される。この投票にかけられる最終の規格案をさす。発行された DIS は Technical Program を参照。

EN　欧州規格（European Standards）。正式な手順を経て CEN/CENELEC の加盟国の投票により承認され、制定された統一規格。EC12ヶ国 EFTA 加盟6ヶ国に適用され、各国は国家規格として EN 規格を採用する義務を有す。また EN 規格と合致しない国家規格は撤回しなくてはならない。EN は1けたの数字から60000台シリーズまで体系的に分類・発行されている。（EN60000=IEC に対応、29000シリーズ=QA 、など）EN のカタログは、CEN 及び CENELEC カタログを参照。

ENV　欧州予備規格（European Pre-standards）。高度な技術革新が進展している分野では EN 統一規格の制定の時期が熟していないと判断された時点で、暫定的な指針として、

緊急に必要な場合に発表される規格。ENV は、3年以内の実験的期間後必要な措置がとられる。

Eurocode　CEN の TC250で審議開発されている欧州建築物構造設計コード。pr ENV 1991～1998の番号で公開されている。このうち Eurocode 2(コンクリート構造の設計=ENV 1992-1-1)、Eurocode 3(鋼構造の設計=ENV 1993-1-1)他が規格化されている。これ以外で審議中のものは、構造の基本設計、諸影響(風力、交通荷重)、鋼及びコンクリート構造構成部品の設計、耐震構造の設計要求事項、等がある。(原案)

別表に Eurocode の現状を示す。

FDIS　最終国際規格案(Final DIS)。

ICS　International Classification of Standards。UDC (国際十進分類法)をベースにして、標準化の対象となる分野を分類、検索及び購入の便を図って整備した新しい分類方式。ISO 、BS 、AFNOR (国際規格分類)、DIN 及び欧州各国で、目録等への導入が進められている。ISO から ICS-1996(日本語版共)が発行されている。

ISO　国際標準化機構(International Organization for Standardization)の発行する国際規格。1946年創設。日本も1952年から加入(JISC)。95年1月現在9,652件の国際規格を発行。TC 1(ねじ)から TC 212(医用器具)締結用部品まで電気・電子を除く分野で国際標準化を実施。OSI などの情報技術については JTCI が IEC と合同で活動している。加盟国109ヶ国。本部はジュネーブ。ISO カタログを参照

JTPC　合同計画調整専門委員会(Joint Technical Programming Committee)。ISO と IEC の専門業務において業務が重複する恐れや現実に重複することを回避あるいは排除することが任務であり、両組織のいずれかが合同計画の必要性を認めた場合に行動を取る。現行手順による JTPC 以下のレベルでの処置では解決困難な問題のみ取り扱う。このような場合、専門業務に加えて計画及び手順における問題を含めてもよい。

NP　新業務項目提案(New work item proposal)。

PASC　太平洋標準会議。

prEN　Draft EN の略。

pr　EN (欧州規格)の原案、Proposal。

Proposal　(Proposed)提案の意味。ASTM 規格の場合、"Proposed Test Method"などと分類され、正式規格として格付けされない。規格としての採用の検討手続きに先立って最大2年の期限付きで、情報及びコメント受付としてのみ担当委員会の承認を経て発行される。(例)"D-19 Proposal P-216" 担当委員会の略号と共に表記されている。

Draft　"ドラフト"と呼ばれる原案のこと。通常は、規格作成委員会の正式な承認手続きを経るため準備、作成された規格原案(最終案)をさす場合が多いが、WG、SC 段階の初期の draft が、新聞、専門雑誌あるいは学会などで発表され、そのまま一般的にドラフトとして区別なく引用されているので注意。作成年月日、版、委員会名、タイトルなどを参照して、最新の情報をチェックする必要がある。

PWI　予備業務項目(Preliminary work item)。

SC　分科委員会(Sub-Committee)。ISO、IEC、CISPR などの場合よく文書委員会名として使用されている。(例) CISPR/SC D (自動車に関する妨害)

TC　ISO 及び IEC に設置されている専門委員会(Technical Committee)。現在(1995年1月) ISO では TC 10(製図)、TC 176(品質保証)、TC207(環境管理システム)など185の TC が設置されている。

TMB　Techninal Management Board。ISO に設置されている技術評議会。

WD　Working drafts。ISO、IEC の場合、作業原案と呼ばれている。新しい規格の提案後、原案の作成段階にある資料。委員会の審議が作成されると CD として登録される。この WD、CDとも著作権が保護されている。

WG　Working Group。ワーキンググループまたは作業部会と呼ばれている。ISO/IEC の場合、TC または SC が、特定の業務について設置している小委員会をさす。

別表　Eurocodeの現状

Eurocode No.	BS No.	タ イ ト ル
1	DD ENV 1991-2-3 :1996	Basis of design and actions on structures Part 2.3 Actions on structures — snow loads
1	DD ENV 1991-4 :1996	Basis of design and actions on structures Part 4. Actions in silos and tanks
2	DD ENV 1992-1-1 :1992	Design of concrete structures Part 1. General rules and rules for buildings (together with United Kingdom National Application Document)
2	DD ENV 1992-1-2 :1996	Design of concrete structures Part 1.2 General rules — Structual fire design (together with United Kingdom National Application Document)
3	DD ENV 1993-1-1 :1992	Design of steel structures Part 1.1 General rules and rules for buildings (together with United Kingdom National Application Document)
4	DD ENV 1994-1-1 :1994	Design of composite steel and concrete structures Part 1.1 General rules and rules for buildings (together with United Kingdom National Application Document)
5	DD ENV 1995-1-1 :1994	Design of timber structures Part 1.1 General rules and rules for buildings (together with United Kingdom National Application Document)
7	DD ENV 1997-1 :1995	Geotechnical design Part 1. General rules (together with United Kingdom National Application Document)
8	DD ENV 1998-1-1 :1996	Design provisions for earthquake resistance of structures Part 1.1 General rules — Seismic actions and general requirements for structures
8	DD ENV 1998-1-2 :1996	Design provisions for earthquake resistance of structures Part 1.2 General rules — General rules for buildings
8	DD ENV 1998-1-3 :1996	Design provisions for earthquake resistance of structures Part 1.3 General rules — Specific rules for various materials and elements
8	DD ENV 1998-1-4 :1996	Design provisions for earthquake resistance of structures Part 1.4 General rules — Strengthening and repair buildings
8	DD ENV 1998-2 :1996	Design provisions for earthquake resistance of structures Part 2. Bridges
8	DD ENV 1998-5 :1996	Design provisions for earthquake resistance of structures Part 5. Foundations, retainings structures and geotechnical aspects

1996年9月末日現在

4. 今までに翻訳した規格の一覧

規格番号	制定年	名　　称	分科会	掲載年度	翻訳者	コメント掲載年度	備　考
ASTM		機械的接合具で構成された接合部の動的性能評価のための標準試法	木質構造	H８	原田		
DIS3373	1974	建築用繊維板ー塗料吸収量の決定	集成材	H７	渋沢		
DIS3712		建築用繊維板ー表面研磨高密度および中密度ボードー塗装後の繊維の浮き上がりの決定	集成材	H７	原		
DIS3729	1976	建築用繊維板ー表面安定性の決定	集成材	H７	渋沢		
DIS9708		木構造ーメカニカル接合具による接合ー釘やステープルを用いた接合の試験	木質構造	H６	大橋	H６	prEN1380～1384
DIS10984	1991	木構造ー釘及びその他のダボ型接合具ー曲げ強度の定義	木質構造	H６	原田	H６	prEN383,409
EN20　-1	1992	木材保存剤ーヒラタキクイムシに対する予防効果の測定ーその1：表面処理の応用（室内試験）	木材保存	H８	飯島		
EN20　-2	1992	木材保存剤ーヒラタキクイムシに対する予防効果の測定ーその2：加圧注入処理の応用（室内試験）	木材保存	H８	飯島		
EN73	1988	木材保存剤ー処理木材の生物試験前の促進耐候試験方法ーその１：揮散耐候操作法	木材保存	H７	高橋		
EN84	1989	木材保存剤ー処理木材の生物試験前の促進耐候試験方法ーその２：溶脱操作法	木材保存	H７	高橋		
EN117	1989	木材保存剤;Reticulitermes santonensis de Feytaud に対する防蟻効力の判定（室内試験法）	木材保存	H９	鈴木	H９	
EN118	1990	木材保存剤;Reticulitermes santonensis de Feytaud に対する予防効力の判定（室内試験法）	木材保存	H９	鈴木	H９	
EN120	1992	木質パネルーホルムアルデヒド含有量の定量ーパーフォレーター法と称される抽出法	集成材	H８	布施谷		
ENTC124　.105	1992	木構造ー試験方法ー構造用製材及び集成材ー附加的な物理的機械的性質の決定	集成材	H６	宮武		
ENTC124　.112	1990	木構造ー試験方法ー耐力釘接合	木質構造	H６	河合	H６，７	prEN1380,CD9708-1.2
ENTC124　.113	1990	木構造ー試験方法ー耐力ステープル接合	木質構造	H６	河合	H６，７	prEN1381,CD9708-2
ENTC124　.114	1990	木構造ー試験方法ー木質系接合具の引き抜き（Withdrawal）耐力	木質構造	H６	大橋	H６，７	prEN1382,CD9708-3
ENTC124　.115	1990	木構造ー試験方法ー木質系接合具の引き貫き（Pull through）試験	木質構造	H６	大橋	H６，７	prEN1383,CD9708-4
ENTC124　.117	1994	木構造ー　試験方法ー機械的接合具を用いた接合部の繰り返し試験	木質構造	H７	河合	H７	
ENTC124　.207	1992	集成材ー強度等級と特性値の決定	集成材	H６	宮武		
ENTC124　.209	1994	高架線用電柱ー試験方法ー弾性係数、曲げ強さ、密度、含水率の測定	製材	H７	杉本	H７	
ENTC124　.210		高架線用木柱ー強度等級区分規格の必要条件	製材	H７	長尾		
ENTC124　.211	1994	高架線用電柱ー寸法	製材	H７	伏谷		

ENTC124 .212	1994	電柱用丸太ー特性値の決定	製材	H７	祖父江	H７	
EN152 -1	1988	木材保存剤ー供用中の木材の育変に対する薬剤処理の保護効力評価用室内試験方法ーその1：塗布処理	木材保存	H７	高橋		
EN152 -2	1988	木材保存剤ー供用中の木材の育変に対する薬剤処理の保護効力評価用室内試験方法ーその2：塗布以外の方法による処理	木材保存	H７	高橋		
EN212	1986	木材保存剤と処理材の分析方法 ﾊﾟｰﾄ1：分析のための木材保存剤及び処理材の試料作成の手引き	木材保存	H９	石田	H９	
EN252	1989	接地条件での木材保存剤の相対的な保存効力の検定のための野外試験法	木材保存	H７	鈴木		
EN273	1992	木材保存剤ーヒラタキクイムシに対する駆除効果の測定（室内試験法）	木材保存	H９	飯島	H９	
EN275	1992	木材保存剤ー海虫に対する防御効力の決定	木材保存	H９	高橋	H９	
EN301	1992	耐力木構造用フェノールおよびアミノ系樹脂接着剤 類型および要求性能	集成材	H８	滝		
EN310	1993	木質パネルー曲げ弾性係数と曲げ強さの測定	集成材	H８	原		
EN326 -1	1994	木質ﾊﾟﾈﾙー抜き取り、切り取り、検査ー1部：試験片の抜き取りと切り取り、および試験結果の表示	集成材	H８	林		
prEN326 -2	1995	木質パネルー抜き取り、切り取り、検査ー２部：工場内での品質管理	集成材	H８	林		
EN330	1993	木材保存剤ー塗布非接地用途の木材保存剤の防護効果を比較するための野外試験法：Lｰｼﾞｮｲﾝﾄ法	木材保存	H８	鈴木	H７	
prEN335 -1	1990	木材・木質材料ー生物劣化に関するハザード区分の定義　その１　一般	木材保存	H６	石田	H６，７	DIS12583
EN335 -2	1992	木材及び木質材料の耐久性ー生物攻撃の被害度区分の定義ー第２部 素材への適用	木材保存	H８	鈴木	H８	DIS12583-2
prEN335 -2	1990	木材・木質材料ー生物劣化に関するハザード区分の定義　その２　木質パネル	木材保存	H６	飯島	H６	
EN335 -3	1995	木材及び木質材料の耐久性ー生物劣化外力に対するﾊｻﾞｰﾄﾞ区分の定義ーその３ ： 木質ﾊﾟﾈﾙへの適用	木材保存	H８	中島		
prEN336	1991	構造用製材ー針葉樹とポプラー寸法ー許容誤差	製材	H６	杉本	H６	
prEN338	1992	構造用木材ー強度階級	製材	H６	祖父江	H６	
prEN350 -1	1991	木材及び木質材料の耐久性ー木材の自然耐久性ーその１ 木材の自然耐久性に関する試験と区分の基準	木材保存	H６	高橋	H６，７	
prEN350 -2	1992	木材及び木質材料の耐久性ー木材の自然耐久性ーその２ 欧州における重要選定樹種の自然耐久性と処理性	木材保存	H６	高橋	H６	
EN351 -1	1995	木材及び木質材料の耐久性ー薬剤処理木材ー第１部 保存剤の湿潤と吸収量の分類	木材保存	H８	飯島		DIS15385-1
prEN351 -1	1990	木材及び木質材料の耐久性ー保存剤処理木材ーその１　ﾊｻﾞｰﾄﾞ区分別保存剤処理木材の性能	木材保存	H６	飯島	H６	
EN351 -2	1995	木材及び木質材料の耐久性ー薬剤処理木材ー第2部 薬剤処理木材の分析のためのｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞについてのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ	木材保存	H８	鈴木	H８	DIS15385-2
prEN351 -2	1990	木材及び木質材料の耐久性ー保存剤処理木材ーその２　保存処理木材のｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞと分析	木材保存	H６	鈴木	H６	
prEN351 -3	1991	木材及び木質材料の耐久性ー保存剤処理木材ーその３　保存処理木材の認定	木材保存	H６	石田		

EN380	1993	木質構造ー試験方法ー静的荷重試験に関する一般則	木質構造	H７	原田	H７，８	CD12581
prEN383	1991	木構造ー試験方法ーダボ型接合具に関するめり込み強度及び基礎的数値の決定	木質構造	H６	原田	H６	
prEN384	1991	構造用木材ー機械的性質と密度の特性値の決定	製材	H６	祖父江	H６，７	WD13910
EN385		木構造ーフィンガージョイントー製造基準	集成材	H９	丸山	H９	DIS10983.2
EN385		木構造ー製材のフィンガージョイントー製造基準	集成材	H８	丸山		DIS10983
EN385	1995	フィンガージョイント構造用製材	集成材	H７	丸山	H８	DIS10983
prEN385	1991	フィンガージョイント構造用製材	集成材	H６	丸山		DIS10983
prEN386		木構造ー集成材ー製造基準	集成材	H９	倉田	H９	CD12578
prEN386	1991	集成材の製造基準	集成材	H６	倉田	H６	WD12578
prEN387		木構造ー集成材ーラージフィンガージョイントの性能基準及び最小限の製造基準	集成材	H９	丸山	H９	WD13911
prEN387	1991	集成材のラージフィンガージョイントの製造基準	集成材	H６	丸山	H６	WD13911
EN390	1994	集成材ー寸法ー許容偏差	集成材	H７	宮武		
EN391	1995	集成材ー接着層の剥離試験	集成材	H７	滝		WD12580
prEN391	1991	集成材の接着せん断試験	集成材	H６	滝	H６	
EN392	1995	集成材ー接着層せん断試験	集成材	H７	滝		
prEN392	1991	集成材の接着剥離試験	集成材	H６	滝	H６	
prEN408	1991	木構造ー試験法ー構造用木材及び集成材数種の物理的及び力学的性質の測定	製材	H６	伏谷	H６	
prEN460	1991	木材及び木質材料の耐久性ー木材の自然耐久性ーハザード区分と耐久性区分	木材保存	H６	高橋	H６	
prEN518	1993	構造用製材ー等級区分ー目視強度等級区分規格	製材	H６	杉本	H６	CD9709-1
prEN519	1993	構造用製材ー等級区分ー機械強度等級区分木材と等級区分機械の必要条件	製材	H６	伏谷	H６	CD1312
EN594	1996	木質構造ー試験方法ー木質フレーム壁パネルのラッキングにおける強度と剛性	木質構造	H８	大橋		
prEN595	1995	木構造ー試験方法ー耐力と変形挙動の測定のためのトラスの試験	木質構造	H９	河合	H９	
prEN596	1995	木構造ー試験方法ー木質枠組み壁の砂袋による耐衝撃性試験方法	木質構造	H９	原田	H９	
prEN599 -1	1996	木材及び木質材料の耐朽性ー生物実験によって決定される木材保存剤の耐朽性能ー第1部：劣化環境分類による特定化	木材保存	H９	石田	H９	
prEN599 -2	1995	木材及び木質材料の耐朽性ー生物実験によって決定される木材保存剤の耐朽性能ー第2部：分類とラベリング	木材保存	H９	石田	H９	

prEN717 -1	1996	木質パネルーホルムアルデヒド放出量の測定-1部：チャンバー法によるホルムアルデヒド放出量	集成材	H８	布施谷		
EN717 -2	1995	木質パネルーホルムアルデヒド放出量の測定-2部：ガス分析法によるホルムアルデヒド放出量	集成材	H８	布施谷		
EN717 -3	1996	木質パネルーホルムアルデヒド放出量の測定-3部：フラスコ法によるホルムアルデヒド放出量	集成材	H８	布施谷		
DD ENV807	1993	木材保存剤 － 軟腐朽の原因となる微小菌類とその他の土壌生息微生物に対する効力の決定	木材保存	H８	石田		
DD ENV839	1994	木材保存剤 ー 木材腐朽担子菌に対する防腐効力の決定	木材保存	H８	高橋		
EN844 -1	1995	丸太及び製材ー専門用語ー第１部：丸太及び製材品に共通した一般用語	木材保存	H９	加藤		
prEN844 -2	1997	丸太及び製材ー専門用語ー第２部：丸太に関する一般用語	製材	H９	加藤		
prEN844 -5	1996	丸太及び製材ー専門用語ー第５部：丸太の寸法に関する用語	製材	H９	長尾		
prEN844 -6	1997	丸太及び製材ー専門用語ー第６部：製材品の寸法に関する用語	製材	H９	長尾		
prEN844 -7	1997	丸太及び製材ー専門用語ー第７部：製材品の組織構造に関する用語	製材	H９	長尾		
prEN912	1992	木造用接合具ー木造用接合具の仕様	木質構造	H９	安村	H９	
EN942	1996	指物における木材ー木材材質の一般的等級区分	製材	H９	祖父江		
prEN975 -1	1994	製材ー広葉樹材の外観等級区分ー第１部：ナラ及びブナ	製材	H９	伏谷		
EN1014 -1	1995	木材保存剤ークレオソート油とクレオソート処理材ー試料採取と分析方法ーその1：クレオソート油試料採取方法	木材保存	H７	飯島		
prEN1014 -2	1995	木材保存剤ークレオソート油とクレオソート処理材ー試料採取と分析方法ーその2：その後の分析のためのクレオソート処理材からのクレオソート油の試料を得る方法	木材保存	H７	飯島		
prEN1014 -3	1995	木材保存剤ークレオソート油とクレオソート処理材ー試料採取と分析方法ーその3：クレオソート油のベンゾーαーピレン含有量定量方法	木材保存	H７	飯島		
prEN1014 -4	1995	木材保存剤ークレオソート油とクレオソート処理材ー試料採取と分析方法ーその4：クレオソート油の水抽出フェノール類量の定量方法	木材保存	H７	飯島		
prEN1075	1997	木構造ー試験方法ーパンチングメタルプレートを用いた接合部	木質構造	H９	井戸田	H９	
EN1084	1995	積層板ーガス分析法によるホルムアルデヒド放出量区分の決定	集成材	H８	布施谷		
prEN1193	1993	木構造ー構造用製材および集成材ー補足的な物理的および機械的性質の測定	集成材	H８	丸山		
prEN1194	1995	木構造ー集成材ー強度等級と特性値の決定	集成材	H８	宮武	H８	
prEN1195	1993	木構造ー試験方法ー床構造の性能	木質構造	H９	五十田	H９	
prEN1309 -1	1996	丸太及び製材ー寸法の測定方法ー第１部：製材	製材	H９	神谷		
prEN1311	1996	丸太及び製材ー生物劣化の測定方法	製材	H９	神谷		
prEN1611 -1	1994	木材ー針葉樹製材ー目視等級区分ー第１部：品質規格のための基準	製材	H９	飯島		

prEN1747 -1	1994	立木の区分ー第１部：径級による区分	製材	Ｈ９	飯島		
prEN1747 -2	1994	立木の区分ー第２部：品質による区分ーオーク、ブナ、ポプラ、タモ	製材	Ｈ９	飯島		
DD ENV1250 -1	1995	木材保存剤ー処理材からの有効成分と他の構成要素の減少量の 測定方法	木材保存	Ｈ８	鈴木		
DD ENV1250 -2	1995	木材保存剤ー処理材からの有効成分と他の構成要素の減少量の 測定方法	木材保存	Ｈ８	鈴木		
ISO768	1972	建築用繊維板ー曲げ強さの測定	集成材	Ｈ７	滝		
ISO769	1972	建築用繊維板ーハードボードおよびメディウムボードー吸水率及び水浸後の厚さ膨張率の測定方法	集成材	Ｈ７	原		
ISO2426	1974	合板ー一般用ロータリー単板によるベニヤ合板ー外観による等級区分のための一般通則	集成材	Ｈ７	原		
ISO2429	1974	合板ー一般用ロータリー単板によるベニヤ合板ー熱帯アフリカ産広葉樹単板を表層に 用いた合板の外観による等級区分	集成材	Ｈ７	原		
ISO3340	1974	建築用繊維板ー砂の含有率の決定	集成材	Ｈ７	渋沢		
ISO3546	1976	建築用繊維板ー表面仕上げ（あらさ）の決定	集成材	Ｈ７	渋沢		
ISO4473	1988	針葉樹および広葉樹原木丸太ー目視による欠点ー分類	製材	Ｈ８	長尾		
ISO4474	1989	針葉樹および広葉樹丸太ー目視による欠点ー用語と定義	製材	Ｈ８	長尾		
ISO4475	1989	針葉樹および広葉樹丸太ー目視による欠点ー測定	製材	Ｈ８	長尾		
ISO6891	1983	木構造ー機械的接合による接合部ー強度及び変形性能を決定するための一般則	木質構造	Ｈ６	原田	Ｈ６	
ISO8375	1985	構造用サイズの製材ー物理的及び力学的性質	製材	Ｈ６	杉本	Ｈ６	
ISO8904	1990	広葉樹製材ー寸法の測定方法	製材	Ｈ８	神谷		
ISO8905	1988	製材ー試験方法ー繊維に平行方向のせん断に対する破壊強度の測定方法	製材	Ｈ８	加藤		
ISO8906	1988	製材ー試験方法ー部分的せん断圧縮に対する抵抗性の測定方法	製材	Ｈ８	加藤		
ISO8965	1987	素材生産業ー技術ー用語と定義	製材	Ｈ８	飯島		
ISO8966	1987	素材生産業ー生産物ー用語と定義	製材	Ｈ８	飯島		
ISO8969	1990	木構造ー片面パンチングしたメタルプレート接合具及び接合の試験	木質構造	Ｈ６	大橋	Ｈ６	
ISO8970	1989	木構造ー機械的接合による接合部の試験ー木材の密度に関する要求事項	木質構造	Ｈ６	原田	Ｈ６	
ISO9086 -1	1987	木材ー物理的および機械的試験の方法ー用語ー第１部：一般概念と巨視的構造	製材	Ｈ８	祖父江		
ISODATA 3	1977	硬質繊維板（ハードボード）の寸法安定性	製材	Ｈ８	神谷		
論文		釘接合部の疑似静的正負繰り返し試験	木質構造	Ｈ８	小豆畑		カラカベリとセコッティの論文

論文		機械的接合部の動的特性に関する試験方法の提案	木質構造	Ｈ７	小松		J. D. Dolan
論文		木質構造接合部の動的性能を特徴づけるための手法	木質構造	Ｈ７	河合		Y. H. Chui

合計：１２７規格（平成10年３月31日現在）

5．ＴＣ１６５ 第11回 シドニー国際会議 議事要録

（1997年10月13日～16日 オーストラリア シドニーにて開催）

中井　孝、安村　基

1.会議の開催　議長のウィルソン博士がシドニーに参集した各国代表者および出席者を歓迎して会議開催を宣言した。

2.各国代表の出席点呼　参加者リスト参照

3.議題の確認　議題がすでに提案されているとおりに確認された。

4.草案起草委員会の指名　安村基(日)、Foliente（豪）, Trads（デンマーク）, Demange（仏）の４名が Resolution 草案作成のために指名された。

5.事務局長からの報告

5.1　Sub Committee 1　の創設

関係者が 1997.5.に会合し 1998 年 5 月 31 日にフランスで第 1 回の公式な会議を開催するとされていたが、不可能となり 1998 年 2 月 4 日にカナダで開催される国際防腐研究グループの集会時に開催を計画している。なお、このサブコミッテイは、ISO 本部より創設をすでに認可されている。

5.2　他機関との連携関係の整理

ISO 本部の Technical Management Board　より全ての TC に対して表記の要請があった。以下は討議結果の概要である。

CEN TC124　連携継続。

CEN TC175　連携中止。

CEN TC55　活動再開されたので継続。

CEN TC38　ISO TC165 SC1 と密接な関係有り。継続。

ISO TC59　SC3; Function/user requirement and performance in building constrution
SC8;Jointing products と連携を確立し、本委員会の TC59 とは、連携中止。

ISO TC89　連携中止。

ISO TC98　Bases for Design of Buildings 連携強化。

その他の機関との連携

CEB-EURO　International Committee for Concrete

連携中止。

CIB W18　Timber Structures 連携強化。

EC　連携中止。TC124 とは密接に連携継続。

ECCS　European Convention of Construction Steelwork
連携中止。

RILEM　International Union of Testing and Research Laboratories for Materials and Structures
連携・情報交換を希望。

ASTM　本来、当委員会に入っているべきであるが、ASTM 側からの ISO に対して参加の意志表示がなされていない。

APEC/PASC　オーストラリアの関係者より説明がなされた。
Asia Pacific Economic co-operation / Pacific Area Standards Congeress の名の下に Hausing・Building Code に関する Working Group がある。
連携希望。

このほか、活動が活発でない機関あるいは今までに情報交換のない機関との連携は中止する事とされた。(FEMIB-GLULAM,UN/ECE)

6.　今後の計画、分科会の報告も含む

6.1　TC165 全般

製材品の曲げ試験方法に関して CEN でも見直しの動きがあり、出来たら ISO と合同で検討をしてはいかがとの提案がラーセンよりなされた。レッサーはパラレルに検討することを希望したが、試験法としては一つであるべきとの主張もあり、９８年の９月までに第１草案を回覧することとされた。この結論は、９８年８月末スイスで開催予定の国際木構造会議を利用して CIB W18 の会合が持たれることなどを考慮に入れた結果である。

6.2　TC 165/WG2　(Requirement for structural glue laminated elements)

Wiliamson (ANSI) の代理として、Milner (SAA) より報告がなされた。

集成材製造要求に関する３項目の CD（１２５７８、１２５７９、１２５８０）が手続き中。

割裂（クリベージテスト）の試験法に関しては分科会としては了解したので New Work Item として取り扱いたい。ラージフンガージョイントの取り扱いについては WG2 から、WG6 へ移したい。

6.3　TC 165/WG5　(Characteristic Values for Sawn Timber)

Barrett (SCC) 欠席のために、Leicester (SAA) より報告がなされた。

4項目の CD (EN 338, EN 518, EN 384, EN 519)について検討している。各国の規格と異なる点は、換算方法の導入等を考える。1997 年のクリスマス迄に各国の意見、あるいは情報を提供いただきたい。1998 年はじめに CD 草案を完成させたい。結論として、この 4 項目の草案は一つのパッケージとみなすことになった。ISO DC9709-2,-3 は、しばらくこのままにしておく。

6.4 TC 165/WG6 (Finger Jointed Structural Timber)

Milner (SAA)より報告された。初期試験、日常的品質管理試験の値を製造者は明らかにする。分科会で相対誤差 5 %と訂正された A3 節は、元に戻して、試験機の精度を 2 %とする記載に変更することとされた。

6.5 TC 165/WG7 (Joints made with mechanical fastners)

Karacabeyli (SCC)より報告がなされた。

第一次草案が作成され ISO 関係者だけでなく ASTM 等の関係者にも送付した。分科会の討議と今後寄せられる意見を配慮して、1 カ月以内に改訂版を作成する予定である。念のため、これは試験法に関する規格であることが確認された。

6.6 TC 165/WG 8 (Structural Properties of Wood Based Panel)

Kempthorne (SCC) より報告がなされた。

TC89 との連携、合同ワーキンググループの創設に関しては進展がない。

6.7 TC 165/WG9 (Round Timber and Poles)

Crews (SAA) より報告がなされた。

第 1 回分科会を開催し、基本的な考え方について論議を重ねた。その結果あらゆる形の丸太を対象に性能基準の考え方を取り、WG5 に準じた試験方法を草案として 9 8 年 3 月までに書き上げる。CEN124 でも類似の活動が継続されていることが披露されたが、まずは個別に活動をすることとされた。

6.8 Subcommittee on Wood Materials-Durability and Preservation

5.1 の議論につけ加えることはないとされた。

7 新規案件

7.1 木構造設計基準について；Larsen (TC124)より説明がなされた。

CEN では、Eurocode 5 の改訂を計画しており、すでにその担当者を決め、ヨーロッパコミッションからのゴーサインを待っている状態である。これをウイーン合意に基づいて ISO の草案と出来ないか。

これに対して議論がなされ、木構造設計基準の必要性はわかるが、現在抱え

ている仕事を考えるとにわかには取り組むことが出来ない。そこで５年ぐらいの長期的な目標として、現在進めている製材および木材加工製品の試験方法と特性値の算出方法をもとに、木構造設計基準を作成することが結論づけられた。

7.2　WG5 に関係する２つの案件が提案され、 ISODC9709-2,-3 に関する案件を新提案として考えることになった。

8　次期会議開催地の検討

中国のハルピン大学より１９９８年９月初期に特定して、招請状がとどいていることが事務局より報告された。しかし、来年の８月末から９月にかけては２、３の関連国際会議が予定されていること、今回中国からの代表者が出席していないために具体的な議論が不可能であったことなどから、次期会議開催地の決定は見送られた。何度も海外出張することは避けたいとの意見が強く、来年は関連国際学会との日程を早めに調整して、ヨーロッパでの開催の可能性が高いものと判断された。

9　その他の案件

なし

10　Resolution の承認

別紙参照

11　会議終了宣言が議長よりなされた。

第１１回ＩＳＯ　ＴＣ１６５決議事項
１９９７年１０月１５～１６日、シドニー、オーストラリア

決議第１１０号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、（ＩＳＯ／ＴＣ１６５　ＳＣ１との関係において）ＣＥＮ／ＴＣ３８及びＣＥＮ／ＴＣ１９３　ＳＣ１との連携を樹立し、またＩＳＯ／ＴＣ５９との連携を停止することを決定した。

決議第１１１号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、 他の国際機関との連携を組織する前に、これらの関係諸団体と接触し、ＩＳＯ規約、第１編、第１．１５条に基づき、どのような情報及びどのような形態の連携が可能であるか調査することをＩＳＯ／ＴＣ１６５事務局に、要求することを決定した。

決議第１１２号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ＣＤ８３７５とＥＮ４０８及び１１９３の改正案を結合させるための共同プロジェクトを創設することを決定した。ＣＥＮ／ＴＣ１２４は、次回の会議でこの提案を支持し、ＩＳＯ／ＴＣ１６５の次回の会議を考慮し、１９９８年８月に最初のドラフトを作成することが期待される。ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ロバート・レスター博士をプロジェクトリーダーに任命する。

決議第１１３号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ＷＧ２による以下の提案を決定した。
１．ＣＤ１２５７８を修正し、ＤＩＳの投票を行う。
２．ＷＧ６において、ＩＳＯ／ＷＤ１３９１１の検討を行う。
３．“木構造ー集成材ー接着層のクリベージ・テスト”を新しい作業課題として提案する（無記投票は、ＩＳＯ／ＴＣ１６５事務局において準備される）。

決議第１１４号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ＷＧ３を解散しＳＣ１に置き換えることを決定した。

決議第１１５号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ＷＧ５の以下の提案に対し、コメントを求めることを

決定した。
ーＷＤ案（旧ＩＳＯ／ＤＩＳ　８９７２）を会議で修正した後ＣＤとする。
ーＣＤ９７０９ー１；ＷＤ１３９１０；ＣＤ１３９１２を会議で修正した後ＣＤとする。

決議第１１６号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ＤＩＳ　１０９８３．２をＷＧ６の提案に基づき修正することを決定した。ＷＧ６の修正の後、新しいドラフトは、ＦＤＩＳとしての投票のために事務局に送られる。

決議第１１７号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ＷＧ７により提案されるドラフト基準“機械的接合部の繰り返し試験法”についてのコメントを求め、作業案とすることを了承することを決定した。

決議第１１８号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、木質パネルの構造特性についてのＷＧ８を出来る限り速やかに活動させることをＩＳＯ／ＴＣ８９に要請する。

決議第１１９号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、クリューズ教授（ＷＧ９主査）に、ＣＥＮ／ＴＣ１２４より、構造用丸太の基準を作成するための、関連する情報を入手することを要請した。ＣＥＮ／ＴＣ１２４は、ＩＳＯ／ＴＣ１６５と平行して同じ事項に関して作業を進めることが期待される。

決議第１２０号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、適切な人材を得るために、すべてのＩＳＯのメンバーにＳＣ１を創設することを周知し、参加を求めるよう事務局に要請する。

決議第１２１号：
ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、ＥＮＶ１９９５ー１ー１を作業の参考資料とし、次回の会議で検討するための新規作業事項案を準備することを事務局に要請することを決定した。

決議第１２２号：

ＩＳＯ／ＴＣ１６５は、作業委員会の主査にＥＮＶ１９９５－１－１を見直し、決議第１２０号で要求された新規作業事項案を配布するためのコメントを事務局に伝えることを期待する。

参加者リスト

Australia

Robert Milner (Monash University) (WG6 議長)
Keith Crews (University of Technology, Sydney) (WG9 議長)
Robert H. Leicester (CSIRO)
Greg C. Foliente (CSIRO)
Harry Greaves (CSIRO)
Geoffrey N Boughton (Curtin University)
Richard Weller (SA)
Colin Blair (SA)
Chi-ham Si (SA)
Owen Archer (SA)
Stephen A. Bolden (Hyne & Son PTY Limited)
David Syme (Pine Australia)

Canada

Carl R. Wilson (Carl R. Wilson & Associates Ltd.)(ISO-TC165 議長)
Art W. Kempthorne (COFI)(ISO-TC165 事務局)
Erol Karacabeyli (Forintek Canada Corp)(WG7 議長)

Czech Republic

Petr Kuklik (Czech Technical University)

Danmark

Hans Jorgen Larsen (SBI)
Eirling R. Trudso (DS)

France

Alain Demonge (CTBA)

Japan

Takashi Nakai (TRTTC)
Motoi Yasumura (Shizuoka University)

New Zealand

Bryan Walford (FRI)

Patrik Simperingham (Carter Holt Harvey)

South Africa

Abe Stears (SABS)

Sweden

Torbjorn Schmidt (Tratek)

分科会報告
WG 2

開催日時：１９９７年１０月１４日（火）　１３：００から１７：００まで
開催場所：シドニーノボテルホテル
出席者：　議長：Milner (SAA)(Williamson 代理），
Walford(SNZ), Simperingham(SNZ), Boughton(SAA), Kuklik(Chech), Yasumura(日本）、他１名(SAA)
議題:
1. ISO/CD 12578 "Timber structures - Glued laminated timber - Production requirements"のレビュー。
2. ISO/CD 13911 "Timber structures - Glued laminated timber - Performance requirements and minimum productionrequirements for large finger joints" のレビュー。
3. 新規作業事項"Timber structures - Glued laminated timber - Cleavage test of glue lines"の検討。

議事内容：議長の Williamson 氏不在のため、Milner 氏の議長代理によりＷＧを進行した。最初に、ISO/WD 12578 に対する各国のコメントの検討を行ったが、南アフリカからの樹種の追加等のほか大きな問題はなく、ＷＧ２はこの案をＩＳＯ／ＣＤ案として受け入れることを了承した。ただし、クリベージテストを入れるための変更及び字句の訂正についての検討が必要となる。また、クリベージテストについては、ＷＧ２の作業事項とすることが了承された。ラージフィンガージョイントについては、ＷＧ２で検討を行うより、ＷＧ６で検討行う方が適切であり、作業をＷＧ６に移すことが提案された。オーストラリアから、現行の ISO/WD 12578 には、集成材の強度に関する基準が無く、今後検討が必要であるとの意見が出され、これをＷＧ２の新規作業事項として提案することが了承された。

分科会報告

WG5 Characteristic Values for Sawn Timber

開催日時　１９９７年１０月１４日（火）　８：３０から１２：００まで

開催場所　シドニーノボテルホテル Terrace Room 4

出席者　議長：Wilson(SCC),Leicester(SAA), Walford(SNZ),Stears(SRBS) Nakai(日本),Kuklik(Chech),MIlner(SAA),Foliente(SAA), Boughton(SAA), Karacabeyli(SCC), Shumit(Sweden), Simperingham(SNZ),他１名(SAA)　計１３名

議事

Structural Timber-Testing,Sampling and Evaluation of Characteristic Values of Stress-graded Timber

１．横引っ張り試験方法

接合性能に必ずしも必要ではないとの見解も出されたが、オーストラリアで試験的に行われた繊維に直角方向に加力するスパンが製材品の長辺以下で幅は約５センチの中央集中曲げ試験結果が回覧された。この試験結果の特徴は欠点の有無に関わらず変動係数が小さかったことにある。約５％であったとのこと。

２．めりこみ（部分圧縮）試験方法

荷重頭のかどは、９０度にしないで３ｍｍのアールをつけることが提案された。

記載された方法以外のめりこみ性能に関しては、係数で調整することを考えている。

３.試験に要する時間

平均１分とすることで同意された。

4. 繊維に平衡方向の引っ張り試験のチャック間隔については、換算係数を考慮する方向で考えていることが明らかにされた。

Structural Timber Grading-Requirements for Machine Graded Timber

1. 毎日の日常的検査が必要であるか否かが議論された。結果はモニターする必要があるとされた。

２.スキャナーが製材品の材長方向に検査するとの記載だけでは、大断面の製材品で基本振動周波数等を使った機械による等級区分が含まれないので、この方法も読めるように記載に工夫することが認められた。

Structural Timber Grading-Requirements forVisually graded Timber

基本的に各国の目視による等級区分を含めるような考え方の記載方法を取って

いる。
主な議論となった点は、「機械による等級区分の場合は日常的な検査を要求しているのに目視の場合はそれが不必要とされているのはおかしいのではないか。」との指摘がなされたことにあった。この点は特に結論がでなかった。
Structural Timber-Structural Classes
1.用語の grade は、ある樹種に関するにすぎないが、classes は、あらゆる樹種を含めるとの合意がなされた。梁背等による寸法調整係数歯別に考えることとされ、基準として１５０mmをとる。
２.単位の表示は Newton/mm^2 あるいは KN/mm^2 が正しいとされ、Mpa、Gpa は使わない。

以上の議論をふまえ、１９９７年のクリスマスまでに各国の意見をレッサーのところにあげることになった。これらの意見を考慮して草案をその後に作成する。できあがった草案は ISO に参集していない外部の専門家にも意見を求める。

分科会報告
WG6

開催日時：１９９７年１０月１３日（月）　１０：００から１３：００まで
　　１７：００から１８：００まで
開催場所：シドニーノボテルホテル
出席者：　議長：Milner (SAA),
Wilson(SCC), Karacabeyli(SCC), Stears(SRBS), Walford(SNZ),
Shumit(Sweden), Kuklik(Chech), Simperingham(SNZ), Nakai(日本),
Yasumura(日本）、他１名(SAA)
議題：ISO/DIS 10983 Timber structures - Solod timber finger jointing - Production requirements のレビュー

議事内容：　各国より出された上記基準（案）に対するコメントの検討を行った。カナダより、フィンガージョイント部のみの基準ではなく、フィンガージョイントされた材としての基準を作成すべきであるとのコメントがあり、これに対して、議長より製材の強度はＷＧ５が取り扱っており、京都の会議でフィンガージョイントと製材は分けて検討することが確認されているとの見解が示され、これが了承された。以下、具体の検討事項と了解事項を示す。
第１節：第２パラグラフを削除（混合樹種のフィンガージョイントを除外すべきでないという米と加の意見による）。
３．５及び３．６：”softwood”を”timber”とする（規格は、針葉樹と広葉樹双方をカバーしている）。
５．２．２及び５．２．３
以下に変更。“節、割れ、繊維傾斜、丸み、木材の損傷等の成長及び加工に伴う性質は、クオリティー・マニュアルに示された範囲内とする（現行の基準は、仕様的すぎるため。米、加、中）。
５．３：“ＩＳＯＹＹＹＹ”をＥＮ３０１に置き換える（ＩＳＯの接着剤の規格が近い将来出来る見込みがない）。
５．４：新しい節と入れ替える。製造者は、統計下限値より低い基準強度を“宣言”する事が出来る（基準値にマージンを設けるべきとの仏のコメントによる）。
６．５：表題の変更。
７．１．２．１：フィンガー・ジョイントのサンプルは、各作業シフト及び製造ラインよりランダムに取る（仏のコメント）。

７．１．４：第５．４の変更に伴う内容変更。
７．４．３：文章変更（現行の文章不適切）。
８．２：文章変更（現行の文章不適切）。
８．３：“試験は製造の７２時間後とする”を“製造者が決めた時間後に”と変更する。
その他：Ａ３の文章の変更。Ｆｉｇ．Ａ１のキャプションの変更。引っ張り試験の追加。
以上の変更を基に、議長は基準案を修正し、メンバーにコメントを求めることとなった。

分科会報告
WG 7

開催日時：１９９７年１０月１３日（月）　１４：００から１７：００まで
開催場所：シドニーノボテルホテル
出席者：　議長：Karacabeyli(SCC),
Foliente(SAA), Kuklik(Chech), Yasumura(日本）, Nakai(日本),
Boughton(SAA), Wilson(SCC), Walford(SNZ), 他数名(SAA)
議題："Timber structures - Joints made with mechanical fasteners - Quasi-static reversed-cyclic test method" の検討

議事内容：　上記の基準（案）について検討を行った。特に、加力経歴について、各国に配布された第一案に対するコメントを基に、議長より修正案が提出された。主な変更点は、最大荷重時の変位の代わりに終局荷重時の変位をとること及び２．５％Ｖｕ及び１２．５％Ｖｕを追加することである。これに対し、わが国からは、欧州規格では降伏変位を基にした加力経歴が提案されており、また加力経歴は、接合部の種類によって異なる可能性があるため、議長案はアペンディックスに１例として取り上げるよう要請した。これに対し、議長案は本文に載せるが、必要があればこれ以外の加力経歴を用いても差し支えの無い旨をフットノートに入れることが提案された。また、加力経歴の第４サイクルは、本来の試験目的とは関係ないのでオプションとすることを申し入れ、了承された。試験体数は、一方向静的加力試験３体、正負繰り返し試験３体とし、加力速度は変位制御とし、０．２ｍｍ／ｓｅｃ又は０．０２ｍｍ／ｓｅｃの何れかとする事が了承された。以上の議論を基に、議長は基準案を修正し、ＷＧのメンバーのコメントを仰ぐこととなった。

分科会報告

WG9 Round Timber and Poles

開催日時　１９９７年１０月１４日（火）　１３：００から１５：３０まで

開催場所　シドニーノボテルホテル Board Room 2

出席者　議長：Crews (SAA)，Leicester(SAA), Walford(SNZ),Stears(SRBS) Nakai (日本),Kuklik(Chech)　の６名 欠席はアメリカ Wiliamson

議事　議長から本分科会の目的には下記の２つがあると指摘がなされた。

１）丸太の試験方法の提案

２）その特性値の導き方

基本的に例えば電信柱の試験方法と言う形ではなくて一般的に建築構造材として使う場合の汎用的な内容を考えていくことで合意がなされた。試験方法の内容としては、片もち梁形式の曲げ性能、４点荷重方式の曲げ、座屈を含む圧縮試験方法、短いスパンで行う剪断試験方法等が候補としてあげられた。また、これらの標準試験方法から得られた結果を整理してキャパシティクラスと呼べるようなものを作成することも考えられる。さらに非破壊試験方法による等級区分に関する検討も興味があるとされた。

上記に関連のある文献・あるいは資料を議長に送り、議論のたたき台を議長が作成することになった。